

## The Global Plan To End TB , 2023–2030 Stop TB Partnership

「2030年結核終息」を実現するために必要な行動と資金(投資パッケージ)を提示するもの。

以下を強調

- ✓ 人間中心としたアプローチ
- ✓ 結核対策を「将来パンデミックへの備え」の中心に位置付ける。
- ✓ 結核医療への普遍的アクセス  
その為に結核研究開発の加速し、新しい結核ツールの導入とスケールアップ。
- ✓ 新規結核ワクチンへの投資  
2025年までに新規ワクチンを承認し、結核高まん延国の成人に届くようにする。
- ✓ 新しいインパクト・モデリングと必要資金予測による2030年結核終息を可能とする「投資パッケージ」を提示

<必要資金>

2023年から2030年の間に、2499億8000万ドルが必要

内訳 結核の予防と治療に 1,572億米ドル(年平均196.5億米ドル)

新規ワクチン利用可能になった後のワクチン接種として526億米ドル

新規結核治療薬や治療レジメン、診断薬、ワクチンの開発の加速に401億8000万米ドル

(毎年8億米ドルの基礎科学研究の支援を含む)

<投資効果>

経済的リターンは、1米ドルを投資するごとに40米ドル。

もし現状のままであるならば、結核により660万人(毎日4,000~5,000人)が死亡し、さらに4,300万人が結核を発症し、1兆ドルの世界経済損失になると予想される。2億3400万人の障害調整生存年(DALYs)を失う。

<インパクト予測>

- ✓ 結核患者の95%が診断を受けることが可能。
- ✓ 全てのハイリスク、脆弱なグループが定期的なスクリーニングを受けることが可能。
- ✓ 470万人の子どもと332万人の薬剤耐性結核患者を含む5,000万人が適切な結核治療を受けることが可能。
- ✓ 3,500万人が結核予防治療(TPT)を受けられるようになる。
- ✓ 2026年までに少なくとも1種類の新規結核ワクチンが導入され、広く使用されるようになる。

上記やその他の介入により、

- ✓ 2030年までに人口10万人あたりの年間結核発症者数を2015年比で80%減少させる。
- ✓ 2030年までに結核で死亡する人の数を2015年比で90%減少させる。